



報道関係者 各位

平成29年 1月25日
 福島労働局労働基準部
 労災補償課長 岡 久 潤
 労災管理調整官 片寄 恵路
 電話 024 (536) 4605
 健康安全課長 清水 俊明
 電話 024 (536) 4603

福島県の通勤災害の現状について

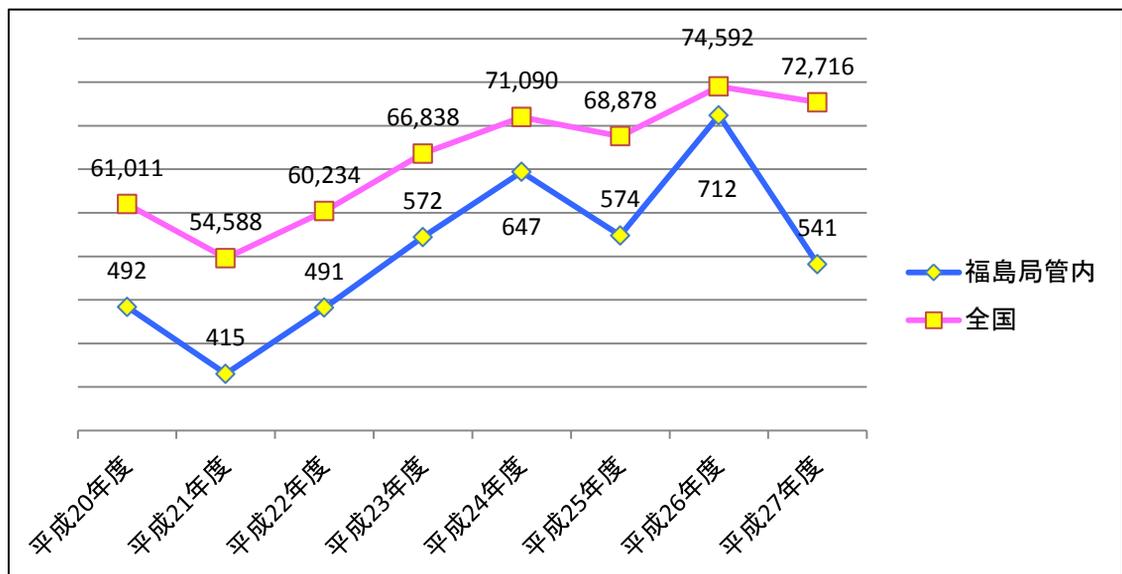
～通勤災害の現状を初めて分析～

福島労働局(局長 島浦 幸夫)では、今般、福島労働局管内の労働基準監督署において平成27年度中に認定した通勤災害の現状について分析・集計を行いましたので、その結果を公表します。

当局における通勤災害の新規受給者数の推移は下表のとおりで、この度は平成27年度中に通勤災害として認定したもののうち、労災指定医療機関から療養の給付請求が行われた550件(※)について分析・集計を行ったものです。

※ 件数の不一致は、「労働者災害補償保険事業年報」の新規受給者数が保険給付の支払い日で集計され、労働基準監督署の認定日と時間的にズレが生じるなどの理由によるものです。

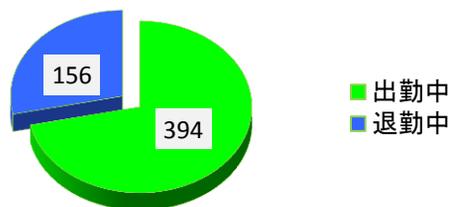
福島労働局における通勤災害件数の推移



福島県の通勤災害の現状について

1 出勤・退勤の別

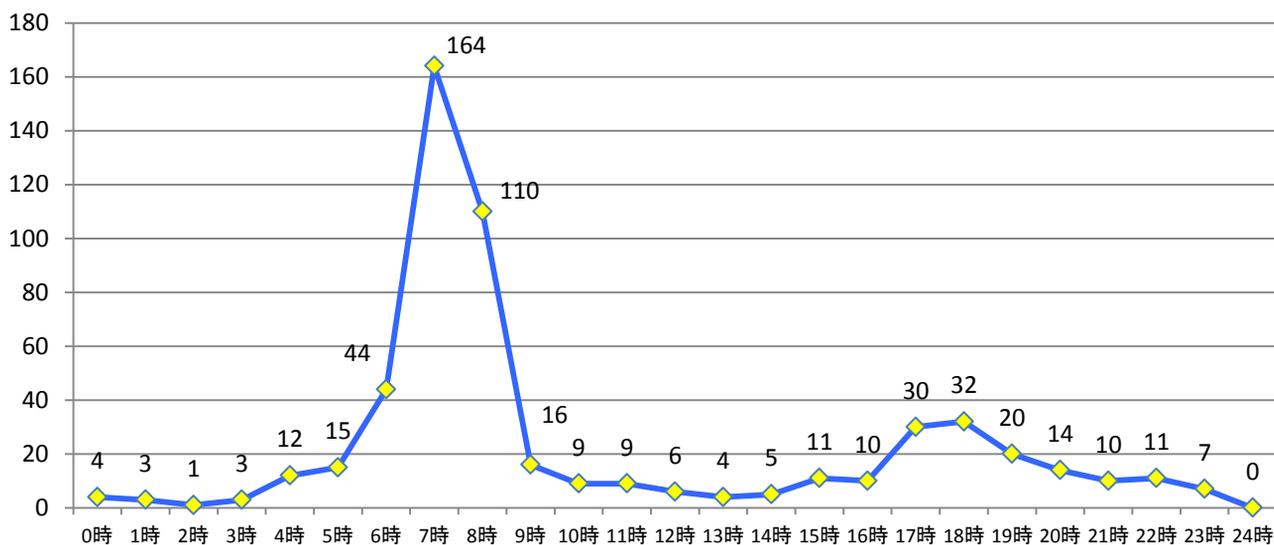
550件のうち、394件が出勤中の災害、156件が退勤中の災害となっており、概ね70%の災害が出勤の途中に発生しています。



2 通勤災害の発生時間帯別

1日の各時間帯における通勤災害の発生状況を見ると、朝は6時から9時の出勤時間帯に集中して発生しており、夕方は17時から19時の退勤時間帯に一定の増加が認められます。

また、22時以降5時までの深夜時間帯においても通勤災害の発生が認められます。

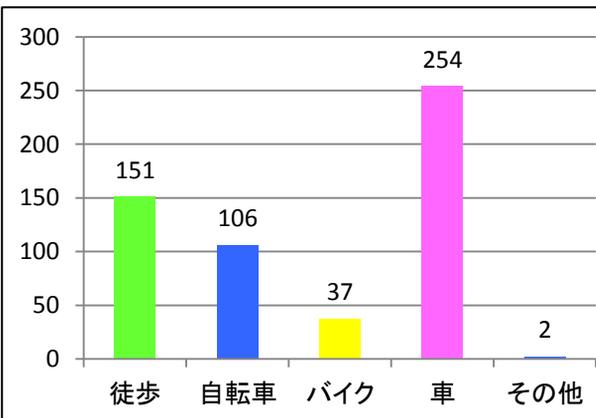


3 通勤方法別

災害発生時の通勤方法は、

- 徒歩 151件
- 自転車 106件
- バイク 37件
- 車 254件
- その他 2件

となっており、半数近くが車を利用しての通勤中に発生しています。

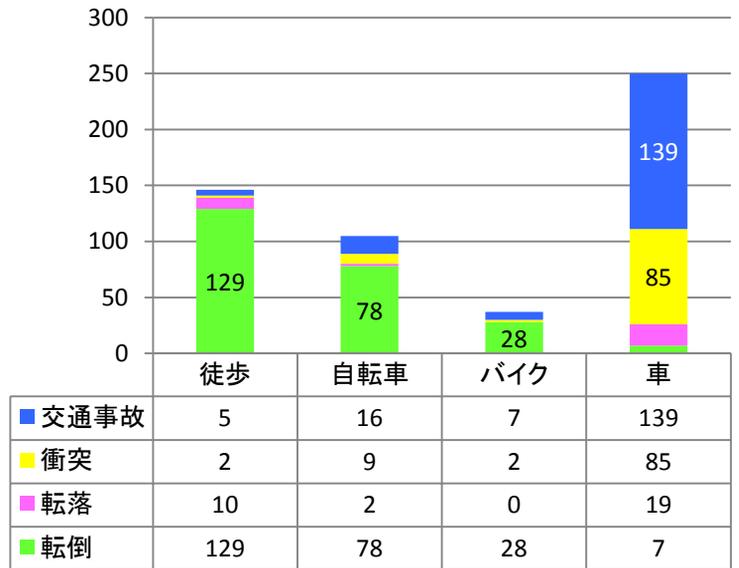


4 通勤方法ごとの災害の類型別

通勤方法ごとの災害の類型（交通事故、衝突、転落、転倒）は右表のとおりです。

類型の中の「衝突」は壁やガードレールへの衝突といった単独の災害のことで、相手方がある災害は「交通事故」として分類しています。

最も災害の件数の多い「車」による通勤ですが、類型の半数以上が「交通事故」となっています。



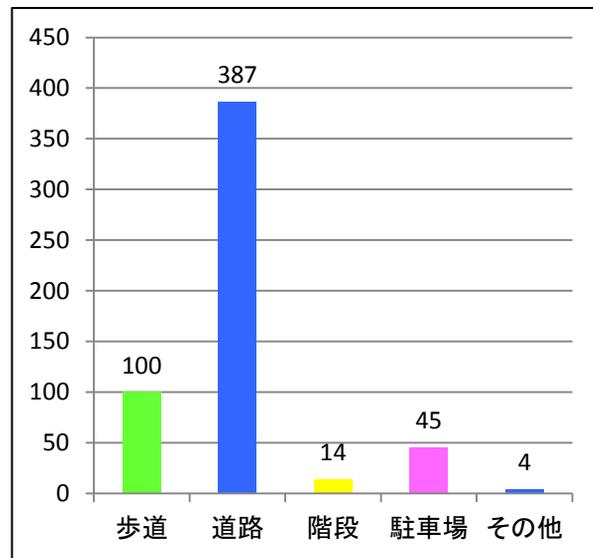
5 通勤災害の発生場所

災害発生場所は、

- 歩道 100件
- 道路 387件
- 階段 14件
- 駐車場 45件
- その他 4件

となっています。

「駐車場」での災害は、会社や自宅の駐車場に車を止め、車から降りて駐車場を歩行中に転倒して発生した災害などを分類したものです。



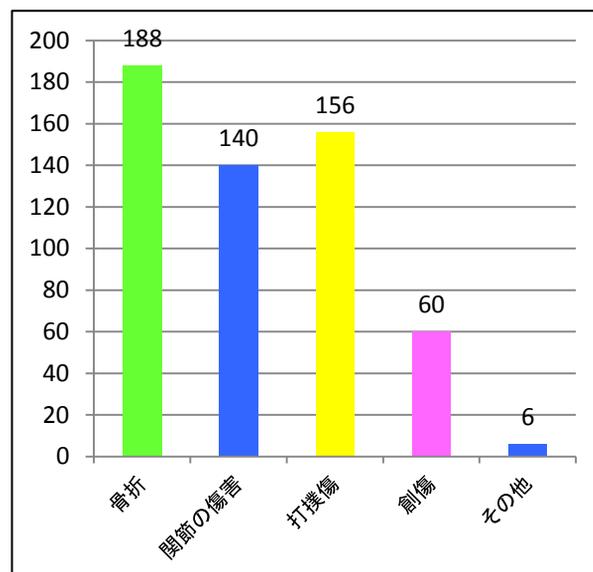
6 負傷の類型

通勤災害による負傷内容の類型は、

- 骨折 188件
- 関節の傷害 140件
- 打撲傷 156件
- 創傷 60件
- その他 6件

となっています。

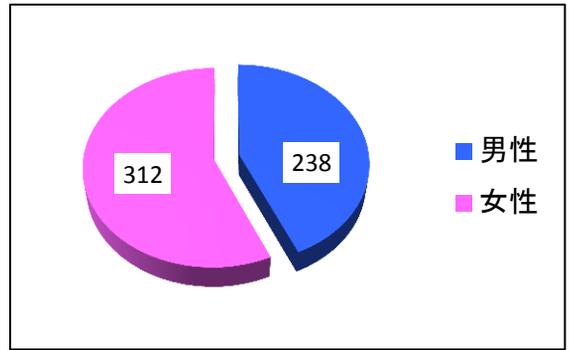
「関節の傷害」とは「捻挫」、「脱臼」などの負傷を、「創傷」とは「切創」、「裂傷」、「挫滅創」などの負傷を指します。



7 被災者の性別

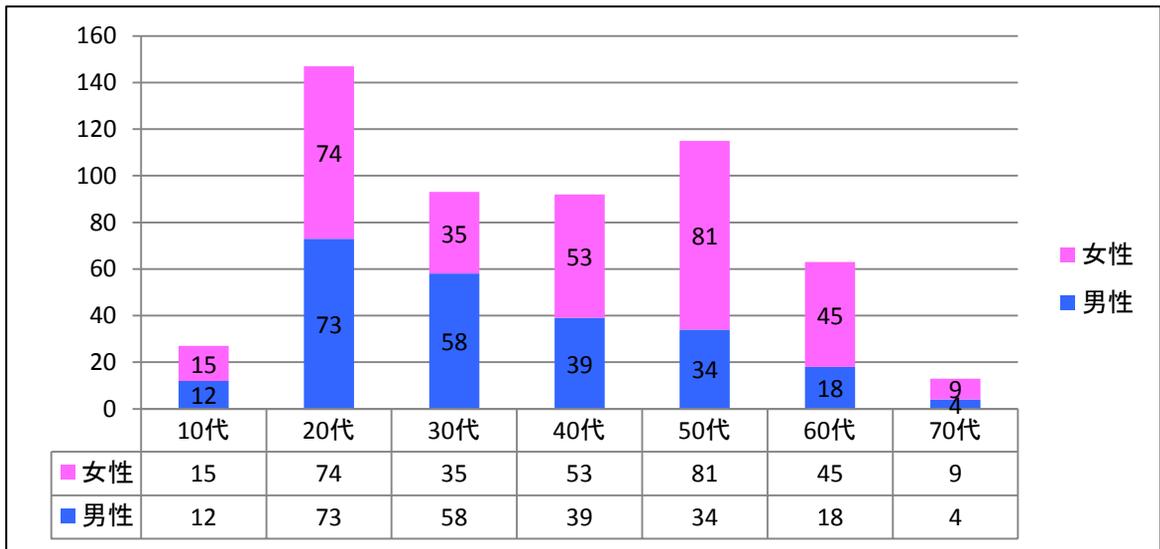
男性が238人、女性が312人となっており、女性の被災者数が男性を上回っています。

福島県における労働者の男女比率は約6：4（平成22年国勢調査結果）であるため、女性の通勤災害での被災率が高くなっているといえます。



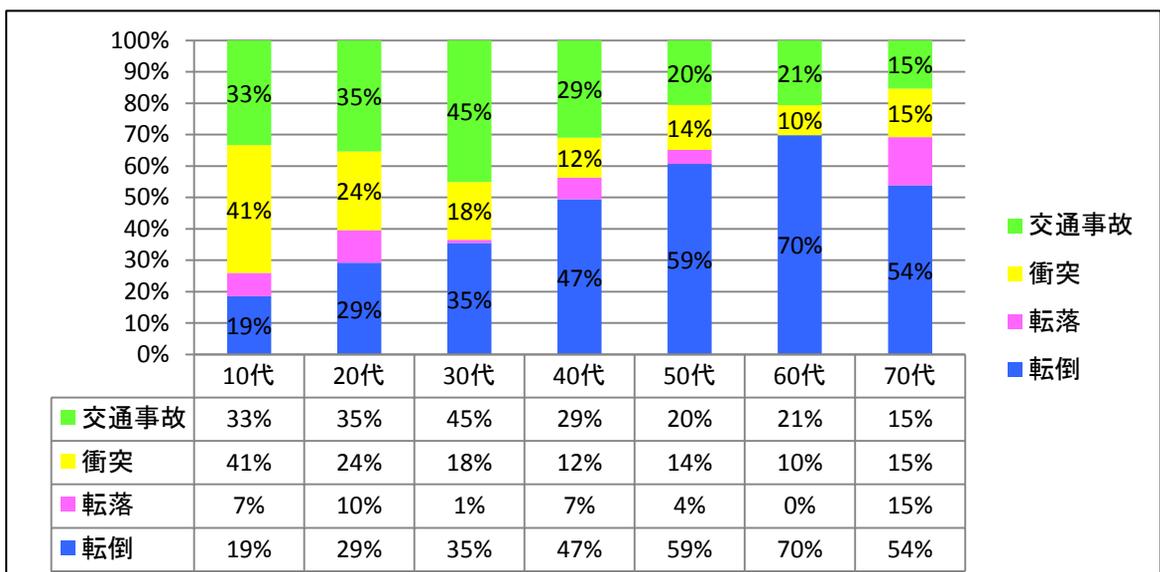
8 被災者の年齢及び性別

被災者の年齢及び性別は下表のとおりで、40代以降では被災者に占める女性の割合が高くなっています。



9 年齢別の災害種類の割合

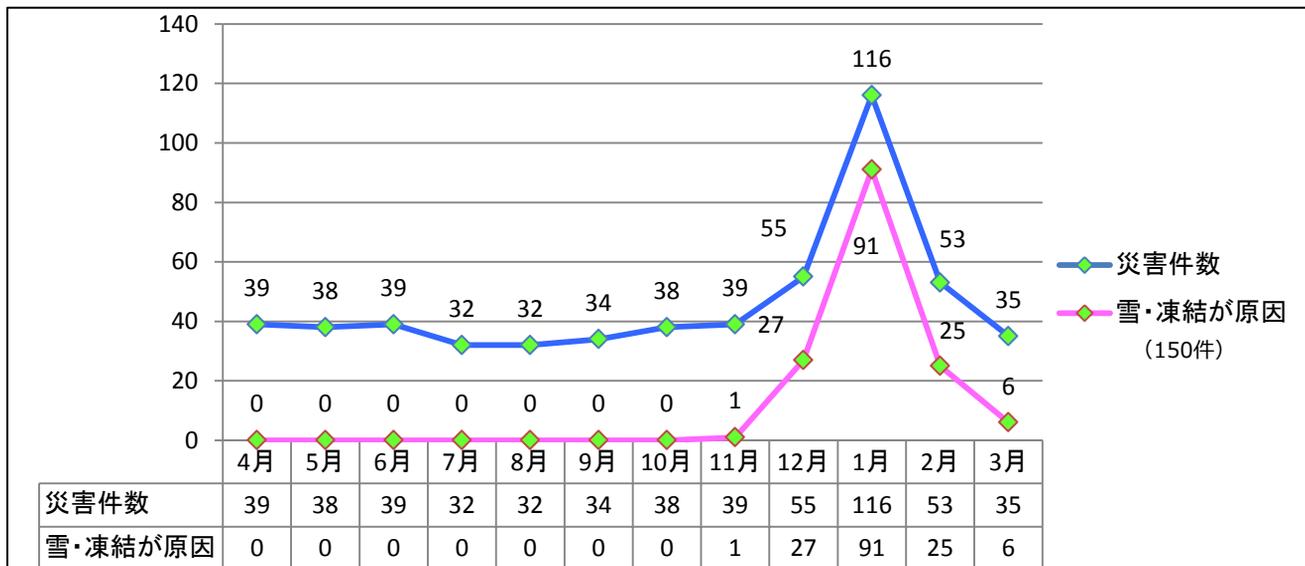
被災者の年齢別の災害種類の割合は下表のとおりで、年齢が高くなるにつれて「転倒」による災害が増加し、逆に「交通事故」による災害は減少する傾向となっています。



1 0 各月の災害発生件数

1 1月から2月にかけて通勤災害の発生件数が増加（青線）していますが、これは寒冷時期に、雪や凍結を原因する災害が増加（ピンク線）しているためです。

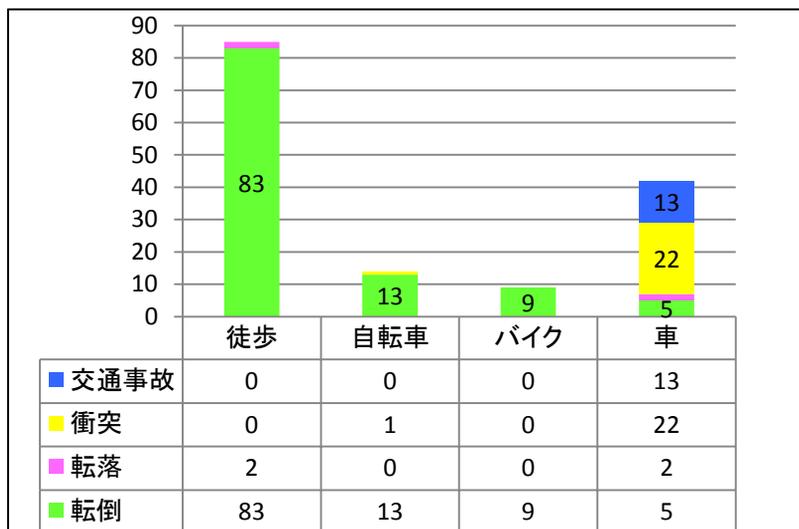
それ以外の各月は、1か月当たり30件台で推移しています。



1 1 雪・凍結が原因による通勤災害の通勤方法及び災害類型

雪・凍結が原因による通勤災害150件の通勤方法と災害の類型は右表のとおりで、半数以上が「徒歩」で通勤中に「転倒」により発生したものです。

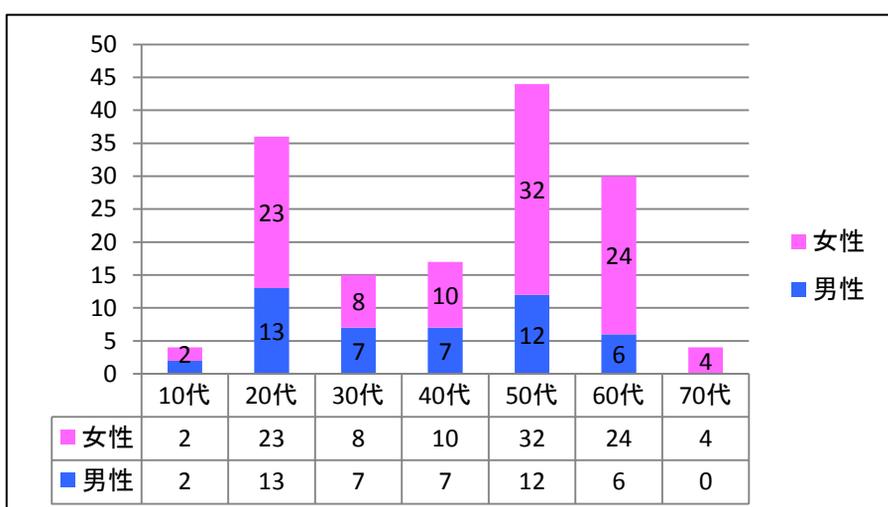
「車」の通勤災害では、スリップなどにより、壁やガードレールへ「衝突」したものや「交通事故」に至ったものが大半を占めています。



1 2 雪・凍結が原因による通勤災害の被災者の年齢及び性別

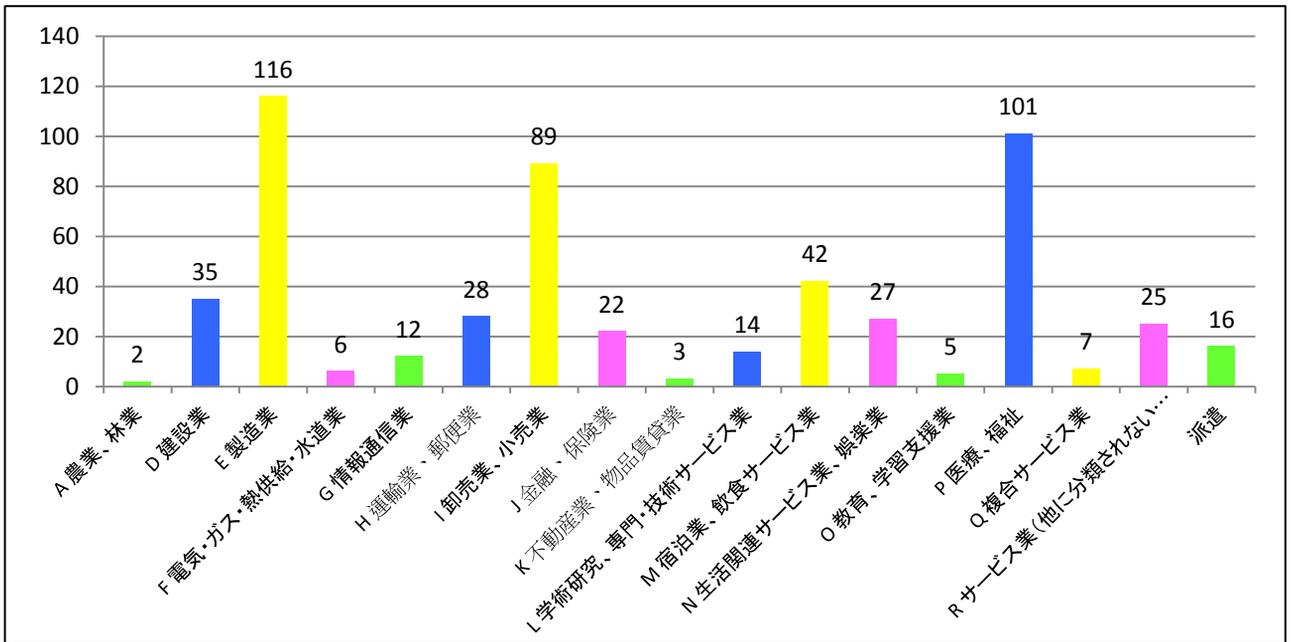
雪・凍結が原因による通勤災害の被災者の年齢及び性別は右表のとおりです。

被災者の約70%が女性となっており、特に50代以降では女性の割合が高くなっています。



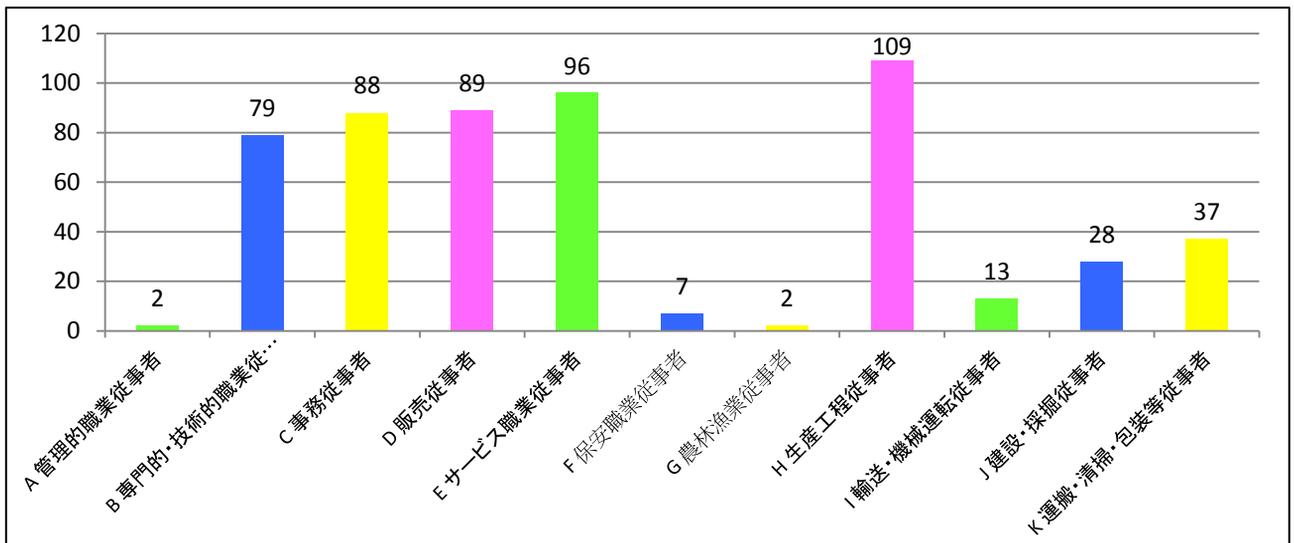
1.3 被災者の所属事業場の業種

「E 製造業」「I 卸売業、小売業」「P 医療、福祉」において通勤災害が多く発生しています。



1.4 被災者の職種

件数は「H 生産工程従事者」「E サービス職業従事者」「D 販売従事者」「C 事務従事者」「B 専門的・技術的職業従事者」の順となりました。

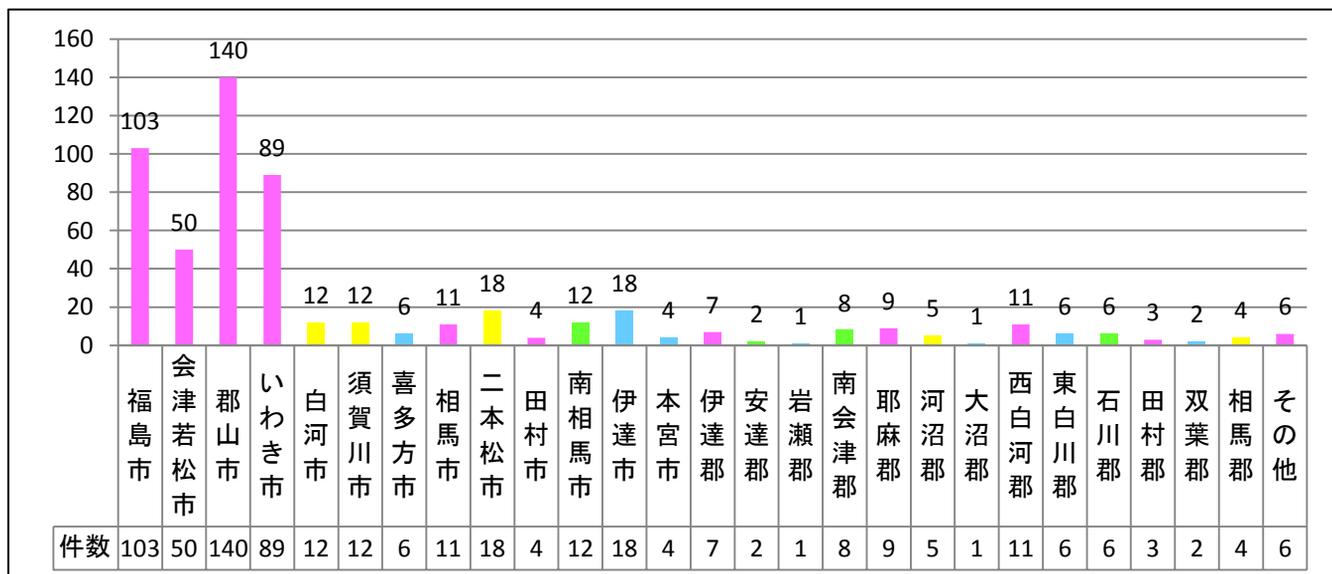
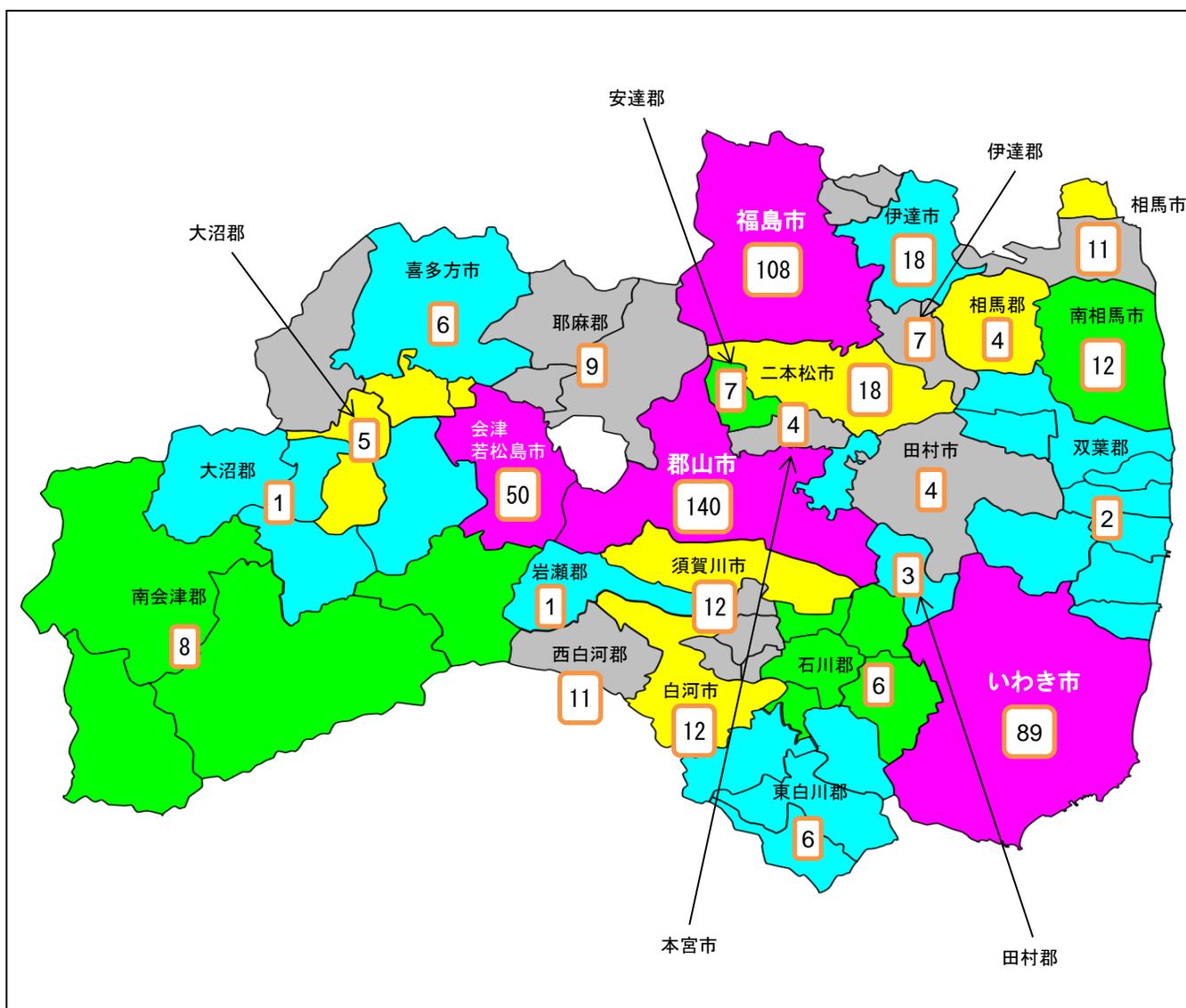


1.5 その他

- 東日本大震災に関連し、復興関連工事、廃炉関連作業、除染作業に従事する労働者に発生した通勤災害の件数は8件となっています。
- 国道6号線で発生した通勤災害は15件となっています。

1.6 地域別の通勤災害発生件数

各地域の通勤災害発生件数は下記のとおりで、発生件数は「郡山市」「福島市」「いわき市」「会津若松市」の順となっています。



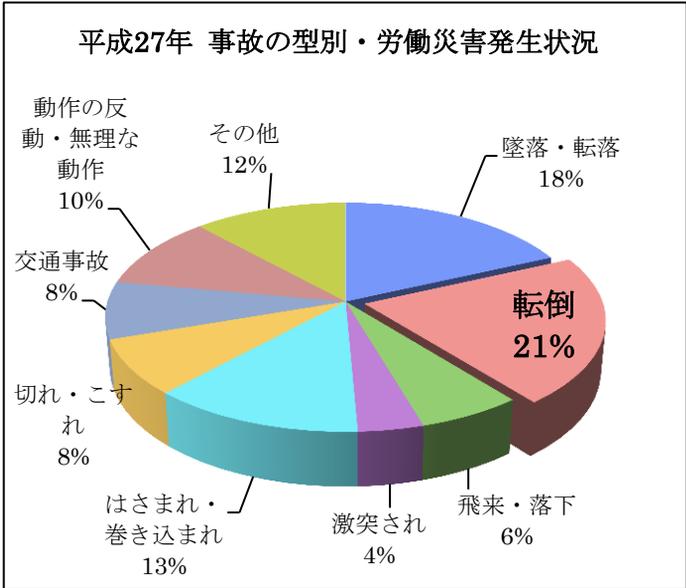
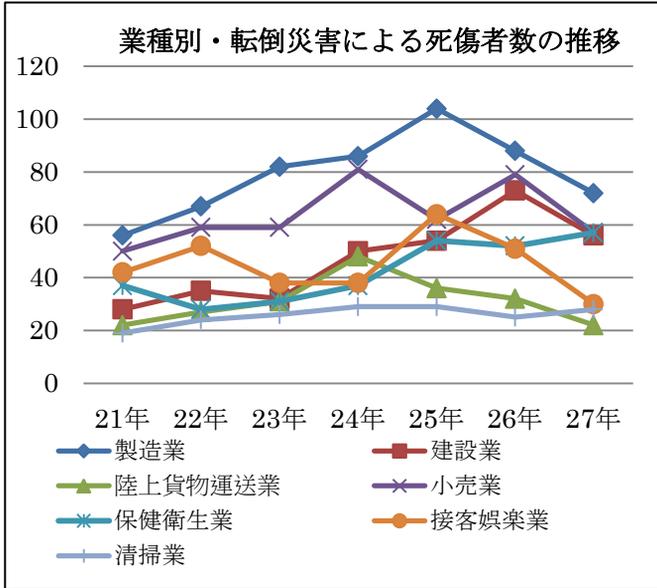
転ばないでね!

毎年6月、12月～2月は重点実施期間です

「転ばないでね!」転倒災害防止対策

福島労働局では、毎年6月、12月から2月を転倒災害防止対策重点実施期間として、転倒事故防止の取り組みを各事業所をお願いしております。

労働災害のうち、転倒災害が全体の2割をしめています。



©2015 ゼロサイくん

詳細は、別添リーフレットをご覧ください。
福島労働局労働基準部健康安全課

厚生労働省で「STOP! 転倒災害プロジェクト」を実施中です

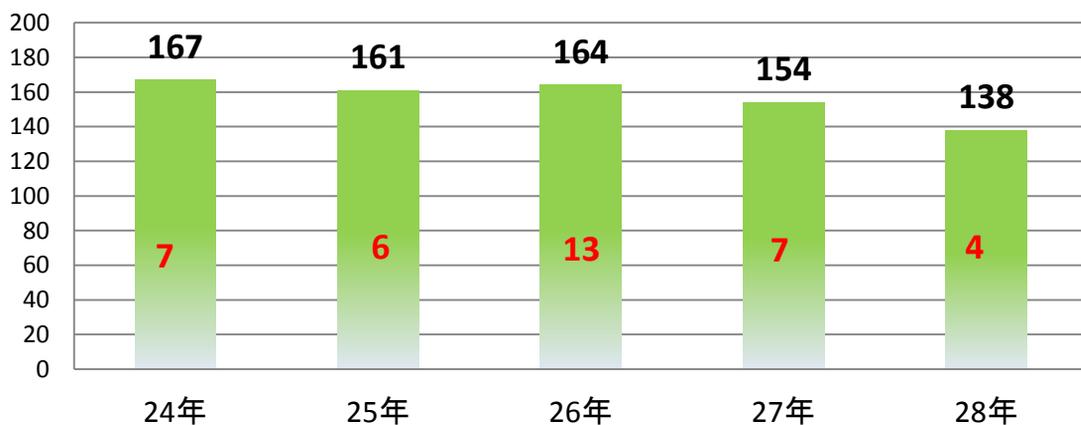
交通労働災害防止対策

交通労働災害は、自動車の運行を中心的業務とする陸上貨物運送事業のみならず、建設業、商業など幅広い業種で発生しています。

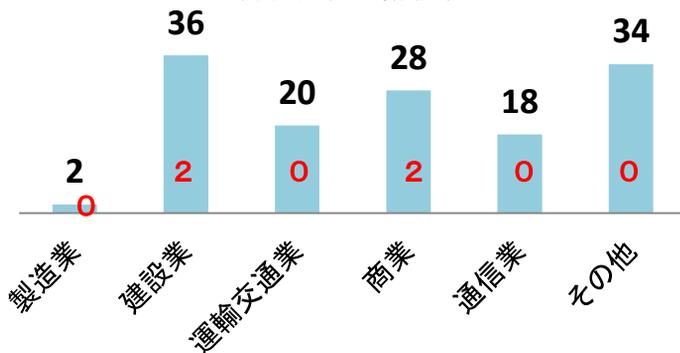
厚生労働省では、「交通労働災害防止のためのガイドライン」を策定し、業務中の交通事故防止の取り組みを各事業所をお願いしております。

業務中の交通事故による労働災害死傷者数(道路)

福島労働局



平成28年 業務中の交通事故による労働災害死傷者数



※棒グラフ上部は死傷者数、棒グラフ内は死亡者数で内数
※死傷者数は休業4日以上 の被災者数
※平成28年は12月末まで報告分の暫定値